



たまくしげふたりうらしま
『玉篋両浦嶋』(小山内薫 鷗外宛はがき) 明治39年9月

目次



『玉篋両浦嶋』明治35年12月発行
歌舞伎発行所

次回展示のお知らせ	特別展「暁の劇場—鷗外が試みた、或る演劇」
展覧会場から	
展示報告	「鷗外への賀状」
	「鷗外親子が訳したグリム童話」
	「雁—映画化、舞台化された名作」
寄稿	「鷗外の列車の旅 ノイディーテンドルフ駅」
活動報告	ベアーテ・ヴォンデ (ベルリン森鷗外記念館副館長)
カフェ・ショップ便り	2013年12月～2014年2月
コラム	From 観潮楼主 No.6
開館カレンダー	2014年4月～9月
これからの催しもの	2014年4月～6月

展示のお知らせ

特別展

暁の劇場——鷗外が試みた、或る演劇

森鷗外が同時代の演劇に深く関わっていたことはあまり知られていません。明治維新によって日本は近代的な統一国家へと進みます。旧来の慣習を打破する変革は、政治、経済、社会の規律だけでなく、演劇にも及びました。新劇場の建設、脚本の改良、俳優養成所の設立、女優の誕生など、変革の内容は様々で、こうした過程で多様な新しい演劇が生まれました。芝居から演劇へ、芝居小屋から劇場へ、役者から俳優へ、女房から女優へ、見物から観客へ。

新しい演劇のかたちを手探りしていた時代に、鷗外はゲーテ、イブセンなどのヨーロッパ戯曲や批評の翻訳、戯曲の創作、演劇評論などを行い、当時の劇壇に新風を送り込みました。鷗外も当時の演劇人たちと同じように演劇の未来を信じ、模索していたのです。

今回の展覧会では、鷗外生前に上演に至った鷗外作品「玉篋両浦嶼」「仮面」「ジョン・ガブリエル・ボルクマン」「ノラ」「曾我兄弟」などを中心に、伊井蓉峰や小山内薫、上山草人など上演に関わった人々との交流

を紹介します。舞台写真、ポスター、プログラム、自筆原稿、演劇人との交流書簡などを通じて、鷗外が試みた近代演劇をご覧ください。

■展覧会で紹介する作品■
玉篋両浦嶼／日蓮聖人辻説法／仮面／ジョン・ガブリエル・ボルクマン／静／生田川／寂しき人々／ファウスト／マクベス／女がた／ノラ／曾我兄弟



『寂しき人々』プログラム 明治44年10月

関連事業のお知らせ

特別展期間中に関連講演会を予定しております。事前申込制、定員50名です。

「100年前の演劇と鷗外」

日時 5月17日(土) 14時～15時半
講師 児玉道一氏(早稲田大学教授、早稲田大学演劇博物館副館長)

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
申込締切 5月2日(金) 必着

「上演された鷗外——俳優と劇場」

日時 5月31日(土) 14時～15時半
講師 神山彰氏(明治大学教授)

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
申込締切 5月17日(土) 必着

申込方法

往復はがき ◆ 往信に「〇月〇日講演会」・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信に住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館「展示関連講演会」受付係まで「ご応募ください」。

Eメール ◆ 件名に「〇月〇日講演会」、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールアドレスを明記の上、
bnk-event@morigai-kinenkan.jp
まで「ご応募ください」。

*申し込みは、一通につき1名様(はがき、Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

*ご不明な点等ございましたら、文京区立森鷗外記念館にお問い合わせください。

ギャラリートーク

当館学芸員が展示解説を行います。

5/14、28、6/11(いずれも水曜日) 各回14時(30分程度)

申込不要。展示観覧券が必要です。

展示会場から

小山内薫筆 鷗外宛はがき 明治42年8月26日付

(505168)

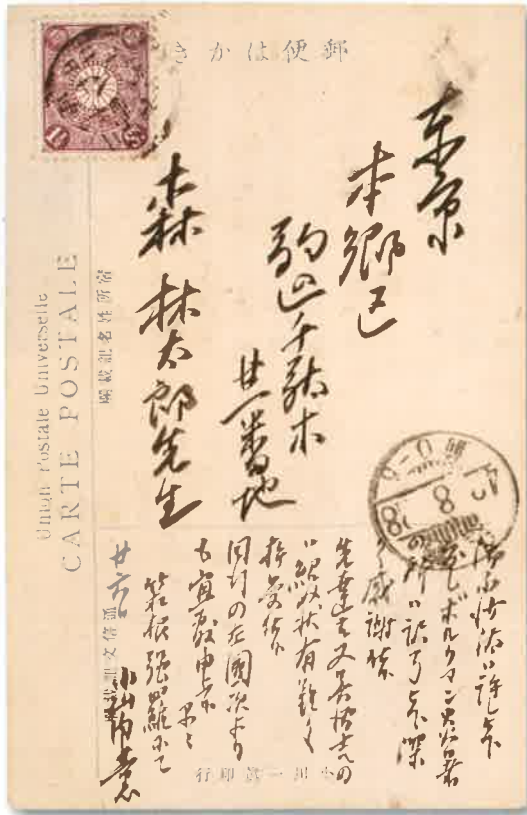
明治42年11月27日、28日、有楽座で小山内薫と二世市川左團次が主宰する自由劇場の旗上げ公演として『ジョン・ガブリエル・ボルクマン(イブセン作)』が上演されました。鷗外は、小山内からこの演目の翻訳を依頼されました。このはがきは、翻訳完了についてのお礼状です。いわゆる「新劇」のはじまりとされるこの公演を、鷗外は11月28日に鑑賞しており、劇場の雰囲気や上演の様子を、自身の小説『青年』に描いています。

【翻刻】

御無沙汰御許し被下
度候ボルクマン炎暑
の所御訳了被下深
く感謝仕候
先達は又呉博士への
御紹介状有難く
拝受仕候
同行の左團次より
も宜敷申上候
早々
箱根強羅にて
廿六日 小山内薫



『ジョン・ガブリエル・ボルクマン』(507152)
明治42年11月 有楽座
右)ボルクマン(市川左團次) 左)フォルダル(市川左升)



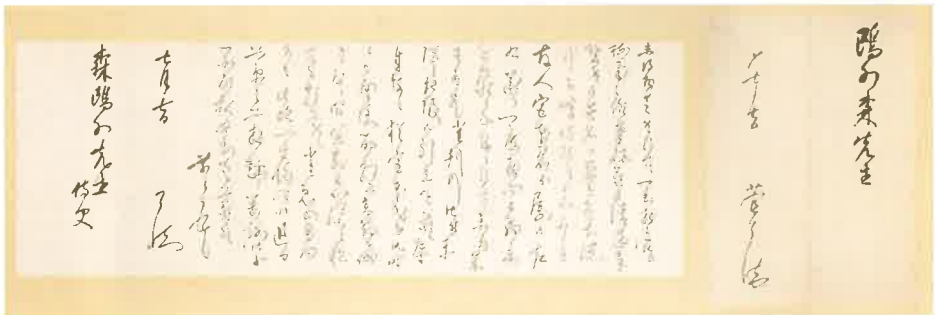
菅了法筆 鷗外宛書簡 年不詳7月7日付

(405149)

鷗外との面談を希望し、時期を打診する挨拶状です。菅は鷗外と同郷の鳥根県出身。僧侶、政治家、教育者で、慶應義塾に学び、オックスフォード大学に留学、帰国後の明治20年に日本初のグリム童話翻訳単行書『西洋古事 神仙童話を刊行します。菅の師匠・福澤諭吉は、文久遣欧使節団でヤーコプ・グリム(グリム兄弟)の兄と対談しており、その影響で菅はグリム童話の翻訳に臨んだのかもしれませんが。そして、鷗外もまた慶應義塾大学で審美学講師を務めていました。

【翻刻】

鷗外森先生
七月七日 菅了法
未得拜芝候得共一書拜呈仕候
梅雨之候筆研愈御清適奉
賀候御芳名ハ兼而文学海
中に喧伝致すのみならず
友人宮本君か履御左
右承り一度拝面御表示
を蒙度存候御得共未だ果
さず候小生刊行仕候東
洋新報御引立を蒙り辱
奉存候猶宮本氏を以時
々御面談節願上高教を仰
き度候間宜敷御心添え程
奉願上候小生急の用向
にて此頃一寸帰郷仕近日
上京之上拜趨万謝仕度
不取敢此書差上置候
草々頓首
七月七日 了法
森鷗外先生 侍史



展示報告

コレクション企画

鷗外への賀状

当館が所蔵している鷗外宛ての賀状(年賀状)から、鷗外と送り手の関係や、当時の時代状況が伺えるもの、デザインや字体など視覚的にももしろいもの15葉を選んで展示しました。

明治39年は今年の干支と同様午年でした。1月は鷗外が日露戦争から二年ぶりに帰国してくる予定になっていました。

鷗外の帰国を既に知らされていたであろう前年の大晦日の日付で、馬の絵の葉書に短歌を添えた平野万里の賀状、あるいは鷗外が新橋駅で皆の迎えを受けた翌日付で投函された小山内八千代の賀状など、それぞれに込められた気持ちの感じられるものを選んで展示しました。



会期 2013年11月29日(金)~2014年1月26日(日)
会場 展示室2

あわせて、当館所蔵の各人ゆかりの資料を展示し、鷗外との交流や、鷗外に寄せる気持ち(木下幸太郎「鷗外讃詞」、齋藤茂吉「あらたま」、哀悼寄書)や、送った人々自身の文学的活動を理解できるように工夫しました。

展示の始まった直後の12月7日には、監修の山崎一頼氏による講演会「鷗外宛年賀状を読む」を開催しました。差出人一人ひとりの紹介と鷗外との交友関係が、その人々が生きた時代背景、当時の文学的状況とともに語られました。新年のあいさつの言葉にこめられた送り手の鷗外に対する思いがより深く理解できるものとなりました。



コレクション企画 鷗外親子が訳したグリム童話

グリム童話の翻訳をめぐる鷗外親子の活動と交流をご覧ください。

鷗外が長男・於菟へのドイツ語の通信教育のために手づくりした教材をまとめた「独逸語の教科書」と、当時の様子を記した「小倉日記」を展示しました。また、於菟の幼少期から修学時代を追い、於菟の日記、明

寄稿

鷗外の列車の旅 ノイディートンドルフ駅

森鷗外は「獨逸日記」に1887年9月16日付けで、「石黒直憲と共にカールスルーエで開かれた第4回赤十字国際会議へ向かっていた道中のことをこんなふう書き留めている。

十六日。午前八時汽車「アンハルト」停車場を發す。同行者を石君、谷口、田口等とす。シャイベ石君を送りて發車場に至る。ノイディートンドルフ Neudietendorf に午餐す。偶々食卓に對座する白頭翁を見れば、徳停府にて相識れる軍醫ベツケルなり。曰くベルリンに赴くと。長隊道を經てオオベルホフに出づ。

この後夜8時に一行はヴュルツブルクに到着する。

ここにあるノイディートンドルフという記述は実は誤りで、正しくは「Neudietendorfノイディートンドルフ」という。鷗外はもしかするとテューリンゲン訛りの車内放送で鼻にかかったdの発音を聞き、とらえ違えたのかも知れない。手書きの原稿だけでなく、鷗外全集でも、地名のスペルミスは特に訂正されていない。

スペルミスについて原稿を一本書くのは少々もったいない気がするので控えるが、駅(1885年までディートンドルフ駅)の歴史や、どうして鷗外がそこで乗り換えたかなどは、とても面白いのである。

1825年、ニュルンベルク・フルト間のわずか6.5kmの距離にドイツで初となる鉄道が開通するや、あっという間に最速の移動手段として鉄道がドイツ中に広まっていった。12年後にはグライヒェン城からほど近いヘルンフートの属領ノイディート

ンドルフにも列車が発着するようになる。駅は長距離路線上に置かれ、しばらくすると北はベルリン、西はフランクフルト、南はミュンヘンなどに行く人の主要駅となった。ノイディートンドルフは各方面からの乗換駅で、かつ線路は一旦そこで途切れており、乗車したまま直通で行ける路線はなかった。列車はそこまで来てと再びもと来た方向に戻って行き、荷物は積み替えられた。

ノイディートンドルフに到着した乗客は、一旦降りて別の路線の乗り継ぎ列車が来るまで待たなければならなかった。鷗外と同時代に生きた作家のテオドル・フォンターネは1871年に次のように綴っている。「餓死したくない者はここで何か食べなければいけない後略」というのも、当時の列車には食堂車がなかったのだ。そういった事情でノイディートンドルフはさながら旅砂漠に浮かぶグルメのオアシスのようなものであった。(図版1)

駅舎は巨大なレストランのようだったとお考え頂ければ良いだろう。待合室と呼ばれたホールが1、2、3、4等まであり、さらに王侯の間が別にしつらえてあった。この



図版1 1868年に建てられたノイディートンドルフ駅が写っている1916年の絵葉書

治37年懐中日記」から父子ぐるみの交流に焦点を当て、ドイツ語や文学の素養が培われた背景を紹介しました。

於菟が山君の筆名で翻訳し、鷗外の添削を経て発表したグリム童話を紹介し、それらの掲載誌「藝文」(萬年艸)「心の花」や、鷗外加筆の校正刷りから、翻訳の過程を展観しました。

それらは単行書「あはせなハンス」に結実します。収められた11話それぞれの訳文と、脇田和の挿画をスライド上映し、「ヘンゼルとグレーテル」の全訳文を壁面に掲載して、親子の共訳作品をご覧ください。さらに、日本初のグリム童話の翻訳単行書を刊行した菅了法から鷗外宛ての書簡も展示しました。

鷗外親子のグリム童話の世界を楽しんでいただけたようでした。

3月15日には、グリム童話初版の翻訳を手掛ける吉原素子氏による講演会「グリム童話―子ども部屋に入った昔話」を開催しました。

本展開催にあたり、多くの方々そして諸機関にお世話になりました。謹んで御礼を申し上げます。



会期 2014年3月1日(土)~4月20日(日)
会場 展示室2

コレクション企画 雁―映画化、舞台化された名作

鷗外の小説「雁」について、原作・映画化・舞台化の3つの括りに分け、約30点の資料を展示しました。

原作のコナーでは、無縁坂や上野広小路など、作中に登場する本郷・湯島界隈の地名を記した地図を作成し、当時の写真とともに展覧しました。映画化・舞台化のコナーでは、スチル写真や舞台写真、脚本などを展示し、様々なイメージ化された「雁」の世界を紹介しました。原作との相違や名優の演じた様子をご覧ください。また、新たな「雁」の魅力を見いだされたことと思えます。

2月11日には関連イベントとして、昭和28年に製作された映画「雁」の上映会を開催しました。16ミリフィルムを送るカタカタという音とともに、作品鑑賞を楽しんでいただきました。



会期 2014年1月30日(木)~2月23日(日)
会場 展示室2

ベアテ・ヴォンデ (ベルリン森鷗外記念館副館長)

王侯の間で乗り継ぎを待っていたのはドイツ帝国宰相ビスマルク、ロシア帝国の大諸侯、公爵、皇帝、国王など錚々たるものである。イギリス女王ヴィクトリアもここで休息を取らなければいけなかった。

鷗外がどの部屋を使ったかは分かっていない。現存している写真資料は2等待合室のものだけである。(図版2)今日の待合室からは想像出来ない程立派なしつらえに驚く。もしここで鷗外が来た方向へ行こうとしていた軍医ベツケルと会食していたとしても不思議ではない。

高貴な客人には現地の子供達が歌を歌って出迎えた。それほどにこの駅は現地の人たちに利潤をもたらしていた。

1914年、それまで途切れていた線路がつながり、それ以来ノイディートンドルフは通過駅となった。往時の高級レストランはその面影を消し、次第に居酒屋などに変わっていった。

テューリンゲン、ノイディートンドルフの近くの町に住んでいるディルク・コッホ氏はこの駅の歴史と著名な利用客について「Eisenbahn in Neudietendorf - Streiflichter aus drei Jahrhunderten」(ノイディー

参考文献
Koeh, Dirk: "Ein Japaner im Deutschen Kaiserreich. Mittagessen auf dem Weg zum Kongress des Internationalen Roten Kreuzes", in: Hanig, Klaus (Hrsg.), "Eisenbahn in Neudietendorf - Streiflichter aus drei Jahrhunderten, Privatverlag Wanderleben und Ingersleben, 2013, Pp. 27-30.



図版3

Beate Wonde ベアテ・ヴォンデ

1954年ドイツ・グーベン生まれ。1973年から1978年までフンボルト大学ベルリンで日本文学、英文学を専攻。1979年から1981年まで早稲田大学に留学。1981年から1987年までフンボルト大学ベルリン助手。1984年ベルリン森鷗外記念館設立以来、多種多様な活動を通して鷗外の紹介に努める。現職、副館長。2006年JaDe-Preis受賞。

活動報告

2013年12月～2014年2月

2013年12月	
1日	14時～15時半 「朗読鑑賞&ワークショップ」 金田翔奈氏
7日	14時～16時 「『鷗外宛年賀状』を読む」 山崎一頼氏
14日	13時半～15時 「アンティーク木製スタンプで年賀状を作ろう」 落合崇氏

2014年1月	
19日	11時～16時半 鷗外誕生日記念行事
25日	13時半～15時 「俳句カードをつくってみよう」 佐藤文香氏
26日	14時～16時 鷗外誕生日記念対談「鷗外と脚氣」 森千里氏+加賀乙彦氏

2014年2月	
1日	14時～16時 「カリグラフィー講座 初級編」 池谷めぐみ氏
11日	14時 上映会「雁」
23日	14時～15時半 「俳優が描く鷗外の世界」 中村彰男氏・山本郁子氏

親子プログラム

俳句カードをつくってみよう

1月25日に親子プログラム「俳句カードをつくってみよう」を開催しました。手拍子をとりながら言葉を出し、言葉の音の数を数えていくところから講座はスタートしました。その後5音と7音の言葉を使って表現する練習をし、いよいよ俳句作りです。季節と様々な単語が書かれたカードをトランプの要領で一つずつ引き、引き当てた単語と単語に自分で考えた言葉を繋いで俳句を作っていました。これは、関連性のない単語と言葉を繋いで俳句を作る「とりあわせ」と呼ばれる作り方の一つで、参加者からは、「このような作り方があったのか？」と驚きの声がかれました。出来上がった俳句は、思い思いの絵を付け加えてカードに仕立てていきました。講師の佐藤文香氏の楽しい指導で、素晴らしい作品がたくさん誕生しました。

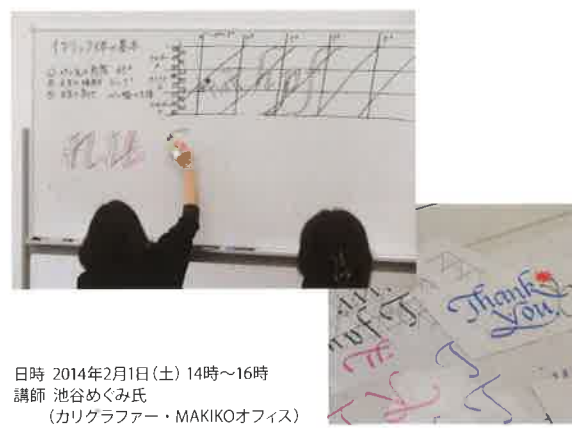


日時 2014年1月25日(土) 13時半～15時
講師 佐藤文香氏(俳人)

文の京ワークショップ

カリグラフィー講座 初級編

2月最初の土曜日に池谷めぐみ氏の指導によるカリグラフィー講座初級編を実施しました。カリグラフィーは、「CALLIGRAPHY(美しい)」「GRAPHEN(書く事)」という、ギリシャ語に由来する言葉で、アルファベットを美しく書くための技法です。通常は、様々な太さや形態の専用のペンを使いますが、今回は初心者でも美しい文字が書ける専用のマーカーを使ってカリグラフィーに挑戦しました。まずはカリグラフィーの基礎を学び、ストローク(筆運び)の練習を経て、アルファベットを書いていきました。通常の文字を書くのとは全く異なる、文字をデザインしていく感覚に最初はとまどいながらも、二時間の講座の最後には、全員が「Thank You」の文字を優雅に美しくあげていました。



日時 2014年2月1日(土) 14時～16時
講師 池谷めぐみ氏
(カリグラファー・MAKIKOオフィス)

展示関連朗読会

俳優が描く鷗外の世界 「雁」ほか

2月23日、文学座の俳優お二人(中村彰男氏、山本郁子氏)による朗読会を行いました。朗読作品は『雁』の抜粋と鷗外が翻訳したモルナール・フェレンツの戯曲『最後の午後』。『雁』では、お玉、末造、僕、岡田等の登場人物が俳優二人によって命を吹き込まれ、観客は物語にひき込まれていきました。『最後の午後』は男女の別れの場面をコミカルに描いた戯曲で、二人の軽妙なせりふのやりとり会場は笑いに包まれました。朗読する側としてはとても難しい文体だったようですが、俳優の声を通して聴くことにより、鷗外作品の文体の美しさをあらためて実感することができた一時間半でした。



日時 2014年2月23日(日) 14時～15時半
朗読 左)中村彰男氏(文学座) 右)山本郁子氏(文学座)

誕生日記念行事

記念サービス

鷗外の152回目の誕生日である1月19日、モリキネ・カフェでドリンクを注文された先着30名の方に、千駄木のカフェ「樺燦」のオリジナルお菓子をプレゼントしました。チョコレイトをベースに、鷗外が好んだというサツマイモと、旬の柚子を合わせたこの日のための特別なお菓子です。大変ご好評をいただき、あっという間になくなりました。



記念対談

「鷗外と脚氣」

この対談は鷗外の誕生日である1月を記念する行事として企画いたしました。対談者は当館の名誉館長、医学博士でもある作家の加賀乙彦氏、千葉大学医学部教授、医学博士の森千里氏(鷗外の曾孫)のお二人でした。



日時 2014年1月26日(日) 14時～16時
講師 右)森千里氏(千葉大学医学部教授・予防医学センター長) 左)加賀乙彦氏(文京区立森鷗外記念館名誉館長)

「脚氣」という今ではほとんど聞かれなくなった病氣は、その原因が分かるまで、多くの死者を出すという深刻な病氣でした。特に日清、日露の戦争の過程で、多くの兵士がこの病で死んでいくということは当時の日本としては深刻な問題でした。お二人は、対談を通して、陸軍、海軍ともに、その治療法を見出すために懸命な努力を続けていたこと、そうでありながらも、特に陸軍の側に多くの死者が出た事実を紹介された上で、その理由として、両者が異なる医学的基礎に立っていたこと(陸軍はドイツ医学、海軍はイギリス医学)、また、陸上と海上という環境の違い、食糧の運搬や保存方法の違い、研究環境の不備などを、具体的に、客観的に挙げて明らかにしていきました。陸軍の軍医であった森鷗外一人を批判するという今日においても根強い言説に対して、歴史的事実を正しく踏まえた上で、冷静な評価が必要なが聴いている人たちに伝わっていききました。

ショップ便り

2月23日まで開催していたコレクション企画「雁」映画化、舞台化された名作に合わせて、ミュージアムショップでも『雁』に関連した商品を取り上げました。小説だけでなくDVDや関連本も販売しました。いろいろなかたちで楽しむ事ができます。商品は展示終了後も販売していますので是非お手にとってみてください。



カフェ便り
2月は東京でも何度か積雪がありました。お庭を眺めながらお茶を飲む事が出来るモリキネカフェでは、いつもとは違った景色を楽しむ事ができました。また、バレンタインデーに合わせてチョコレイトを期間限定販売しました。カカオ豆から自家焙煎し、丁寧に作ったチョコレイトで、ご好評をいただきました。



鷗外蔵書の行方

鷗外死去の翌年、大正12年9月1日、関東大震災が発生しました。マグニチュード7.9の大地震で、各地が火災・津波に見舞われます。観潮楼近くにある東京帝国大学(現・東京大学)もその例に外れず、数十万冊に及ぶ図書館の蔵書が焼失しました。

震災から三年後の大正15年、図書館復興と鷗外蔵書の分散を避けるため、鷗外の長男・於菟と、長女・茉莉の夫であった山田珠樹が中心となって、約1万9千冊の鷗外蔵書が東京帝国大学図書館に寄贈されました。多種に富む鷗外蔵書からは、幅広い分野で活躍した鷗外の人像がうかがえます。

まだ記憶に新しい平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。当館も加盟している全国文学館協議会では、平成24年から「東日本大震災と文学」をテーマにした共同展示を開催しています。当館では、3月8日から5月7日まで、震災を契機として鷗外蔵書が現在まで残された経緯を紹介するパネル展示を行います。

From 観潮楼主 No.6
関東大震災で炎上する東京大学付属図書館
1923(大正12)年
東京大学総合図書館所蔵

平成26年度前期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

コレクション企画「鷗外親子が訳したグリム童話」
3月1日(土)～4月20日(日)

特別展「暁の劇場—鷗外が試みた、或る演劇」
4月26日(土)～6月22日(日)

コレクション企画「児童文学と鷗外(仮)」
6月27日(金)～9月7日(日)

特別展「流行をつくる～三越と鷗外(仮)」
9月13日(土)～11月24日(月祝)

● 休館日

○ 20時まで開館

これからの催しもの 2014年 4月～6月

催しは全て事前申込制です。詳細は、ちらしやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。

◆文の京ワークショップ
「吟行句会 鷗外ゆかりの坂を訪ねて」

日時 4月19日(土) 13時～17時
講師 佐藤文香氏(俳人)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室、千駄木界限
料金 600円(観覧料・保険料込)
定員 10名(申込締切 4月9日(水)必着)

◆鷗外講座 応用編
第1回 作品研究1「カズイスタカ」

日時 6月7日(土) 11時～12時半
講師 倉本幸弘氏
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
定員 50名(申込締切 5月24日(土)必着)

◆朗読会
俳優が描く鷗外の世界2
—戯曲作品ほか—

日時 6月14日(土) 14時～15時半
朗読 未定(文学座)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 600円(観覧料込)
定員 50名(申込締切 5月31日(土)必着)

◆鷗外講座 応用編
第2回 作品研究2「静」

日時 6月21日(土) 11時～12時半
講師 倉本幸弘氏
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 無料
定員 50名(申込締切 6月7日(土)必着)

◆新・観潮楼歌会
短歌VS俳句

日時 6月29日(日) 14時～16時
講師 東直子氏(歌人)、佐藤文香氏(俳人)
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
料金 500円(観覧料込)
定員 50名(申込締切 6月14日(土)必着)



【交通案内】

- 電車をご利用の場合
 - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅1番出口徒歩5分
 - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅1番出口徒歩10分
 - ・都営三田線「白山」駅A3番出口徒歩15分
 - バスをご利用の場合
 - ・都バス草63番系統「千駄木一丁目」下車徒歩1分
 - ・都バス上58番系統「団子坂下」下車徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)
6月～9月の毎週金曜日は20:00まで開館(最終入館は19:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、燻蒸期間等

